

第59回 日本笑い学会研究会

参加者募集

日本史で笑い解く 古典落語

日時：2025年12月7日（日）午後2時～5時

会場：龍谷大学大宮キャンパス 西饗102講義室

参加費：会員無料、非会員500円（龍谷大学関係者 無料）

●プログラム

開会挨拶

コーディネーター 札埜和男理事（龍谷大学文学部教授）

①龍谷大宮寄席

落語『つる』浪漫亭瑠畔（久保貴彦理事）

落語『佐々木裁き』爪田家らいむ（矢野宗宏副会長）

②鼎談（高島幸次氏・矢野宗宏副会長・札埜和男理事）

③講演「落語の史層に学ぶ笑い」

講師：高島幸次氏（大阪天満宮文化研究所所長）

「古典落語は、その話が作られた時代における当代性（その時代の旬の情報）と、歴史性（その時代にはすでに旬を過ぎた情報）の両方を踏まえて作られています。しかしそれから100年以上も経った現代では、その両方の情報が消えています。にもかかわらず面白いのは落語には、重層的な笑いが込められているからです」（高島氏）

●講演 講師紹介

龍谷大学大学院文学研究科修士課程修了。専攻は日本近世史・天神信仰史。龍谷大学エクステンションセンター（略称REC）顧問、大阪天満宮文化研究所所長。夙川学院短期大学教授、本願寺史料研究所客員研究員、追手門学院大学客員教授、大阪大学招聘教授などを歴任。



博覧強記を地で行く知識と、思わず吹き出す絶妙なトークから「浪花の語り部」の異名も。近江地方史・天神信仰史に加え、古文書などから読み解く大阪の庶民の生活史にも精通している。天満天神繁昌亭で毎月25日天満寄席をプロデュースしている。著書に『奇想天外だから史実—天神伝承を読み解く—』（大阪大学出版会）、『大阪の神さん仏さん』（釈徹宗と共著。140B）、『日本人にとって聖地とはなにか』（内田樹・釈徹宗・茂木健一郎・植島啓司と共著。東京書籍）、『上方落語史観』（140B）など。今回のテーマに関わる著書として『和泉選書196 古典落語の史層を掘る』（2022年）和泉書院がある。

〈会場案内〉

龍谷大学大宮キャンパス 西饗（せいこう）102講義室

京都市下京区七条通大宮東入大工町125番地の1

- ・各線「京都」駅下車、北西へ徒歩約10分
- ・最寄りのバス停：市バス「七条大宮・京都水族館前」

〈お問い合わせ〉 090-2350-0093 矢野宗宏

